interview1

戦跡を通して過去に学ぶ

観光研究グループ　迫 睦子（サコ ムツコ）さん

「鹿屋には史料館や、たくさんの戦跡があります。中・高生の平和学習に役立てる取り組みに、あなたも一緒に参加しませんか」と串良の地下壕で市の方から声をかけて下さったのをきっかけに、平和学習ガイドを始めました。

教員時代から平和な社会を願い教育に携わってきて、退職後も頼まれれば細々と案内をしていた私は、「中・高生の平和教育」の手伝いと聞き、若干の不安を抱えながらも、すぐにＯＫの返事をさせていただきました。

観光研究グループの一員となり、みんなで知恵を出し合い、大隅半島一円、現地調査・資料収集をし、約半年たった今春、鹿屋市内の戦跡を一冊の冊子にまとめることができました。

今思うことは、子どもさんを含めた市内の方々に、たくさんの戦跡があることを知って欲しい。この地区に数多いのはなぜか。鹿屋はどういう役割を果たしたのか。過去の事実をきちんと知って次の世代に伝えて欲しい。二度と戦争を繰り返さないためにということです。また、調べれば調べるほど、新たに知ることや疑問が生じ、課題の深さをつくづくと痛感しているところです。

戦後 70 年を迎える今、戦跡の多くに崩壊のおそれや管理者の高齢化などという現実がありますが、「見学して良かった」と言って下さる方の言葉を何よりの励みに、今後もガイドを頑張りたいです。

interview2

高須の大事件を伝える

山下 巖（ヤマシタ イワオ）さん

「敗戦の　歴史を刻む　この碑に　不戦平和の世を祈ります」と刻まれた石碑があります。この碑は、高須町の金浜海岸を見下ろす県道沿いに「進駐軍上陸地の碑」として立っています。

昭和 20 年８月 15 日に終戦となるわけですが、９月になって進駐軍が浜田・高須海岸に上陸するという話になりました。周りの町民は、親戚・知人を頼って田舎の方へ逃げましたが、私たち一家は頼る親戚がいませんでした。そこで、３日の夕方に当時小学６年生だった私は弟を背負い妹の手を引いて一家７人、浜田・高須海岸とは逆の金浜海岸近くの山中に逃げ込みました。

ところが、翌日になると金浜の沖周辺が騒がしくなり、大きな船やボートが走り回るようになりました。そして昼前に、黒いボートが眼下の砂浜に突っ込んできました。浜には鉄板などが敷かれ、見たことのない重機やブルドーザーが砂浜と県道をつなぐ道路をつくり、リュックを背負い鉄砲を担いだ兵隊が続々と鹿屋の街へ進行していきました。

初めて見るアメリカ人や拡声器から流れてくる音楽や英語、怖くてぶるぶる震えながら、やぶの中から見ていました。

世界が注目したこの大事件。これから皆さんが後世に伝えてくれるよう、平和な国を作ってくれるよう願いを込めて建てられたのが、この「進駐軍上陸地の碑」です。

▲金浜海岸に上陸する進駐軍

鹿屋での戦争に関するエピソードや戦争関連施設の情報を募集

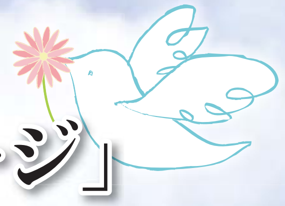
戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に語りつぐため、鹿屋における戦争の体験談や特攻隊等に関する情報を集めています。

鹿屋での戦争に関するエピソードや、当時から残る戦争関連施設の情報などありましたら、電話やファックス、メール等でお寄せください。また、平和学習のガイドを行って下さる人も併せて募集しています。

【問い合わせ】
市商工観光課
☎０９９４-31-１１２１
FAX ０９９４-40-８６８８
メール syoukou@e-kanoya.net

▲戦後の高須川の写真

平和の花束 2014「平和へのメッセージ」



かのや未来創造プログラム平和の花束２０１４「平和へのメッセージコンテスト」は、太平洋戦争末期、多くの特別攻撃隊員が出撃していったここ鹿屋の地から、平和へのメッセージを届けることを目的に今年初めて開催されます。

県内の小・中・高校生から応募のあった７８４点の作品を審査した結果、最優秀賞３点を含む12点の入賞作品が決定しました。

そこで、小・中・高校生各部門の最優秀作品が朗読される「平和の花束２０１４」を次のとおり開催します。

●**日時**＝８月19日（火）13時～15時15分

●**場所**＝リナシティかのや３階ホール

●**内容**

○第一部＝平和へのメッセージコンテスト

○第二部＝山本春美さんによる「平和の歌」コンサート

●**入場料**＝無料

【問い合わせ】
市学校教育課
☎０９９４-31-１１３７

これからも、自分は戦争に巻き込まれることは無いだろうと思っている。でも、世界のいたる所では戦争とまではいかなくても、民族間の暴動や紛争がおこっている。ニュースで見聞きするたびに、戦争の罪深さを痛感する。

「平和」って何だろう。今回改めて自分に問い、考えてみた。戦争と自分は、あまり関係ないものだと思っていた。けれど、私の祖父は戦争中、私と同じ十二才。鹿屋にいたそうだ。鹿屋には、串良・笠之原・西原の三カ所に飛行場があり、そこをアメリカのグラマンという小型機が攻撃しに来ていたそうだ。毎日鳴り響く空襲警報に生きた心地がしなかったと言っていた。

グラマンが落とした五十キロ、グラム爆弾の穴が寿小学校のプール跡だと知り、本当に驚いた。私のこんな身近なところに戦争のつめ跡があっただなんて・・・。

初めて祖父から聞く戦争の話は、信じられない事ばかりで、そんな中生き抜いてくれた祖父によって、今の私がいる事を知った。

※「平和へのメッセージコンテスト」応募作品から一部抜粋

平和へのメッセージコンテスト受賞者

小学５・６年生の部

最優秀賞
「知りたい、伝えたい、戦争のこと」
藤本凛乃（フジモト リノ）（串良小６年）

優秀賞
小野颯士朗（オノ ソウシロウ）（花岡小５年）
川上春花（カワカミ ハルカ）（笠野原小６年）
溝口笑花（ミゾグチ エミカ）（上小原小６年）

中学生の部

最優秀賞
「祖父から受け継いだ大切な命」
川﨑萌子（カワサキ モエコ）（鹿屋東中１年）

優秀賞
坂本舞香（サカモト マイカ）（細山田中２年）
友井川梨花（トモイガワ リンカ）（上小原中３年）
齊藤恵里（サイトウ エリ）（鹿屋東中３年）

高校生の部

最優秀賞
「原爆が残したもの」
松元優美（マツモト ユウミ）（鹿屋女子高３年）

優秀賞
山口花（ヤマグチ ハナ）（鹿屋女子高２年）
川原田優華（カワハラダ ユウカ）（鹿屋女子高３年）
迫田有希（サコダ ユキ）（鹿屋女子高３年）